

令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）関係事業の検証・評価結果

No	交付対象事業の名称	交付金の種類	交付金実績額	本事業におけるKPI(重要業績評価指標)				自己評価		外部有識者からの評価		次年度以降の取組等	
				指標	事業開始前	実績値	令和6年度KPI	事業の評価	担当課自己評価	事業の評価	外部有識者からの意見		
1	文化観光の推進とアーティスト・クリエイター移住・定住計画	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	44,727,202円	指標①	アーティストやクリエイターの移住に関する相談件数	- 件	76件	80件	基本目標を達成するために、効果があつた。	指標①、指標②については目標値を下回ったが、前年度実績値と比べると指標①については76件増加の105件、指標②については6件増加の36件ということで、引き続き数値が増加するよう取り組んでいきたい。指標③については、目標を達成することができた。(R3:参加人数25,576名(来場者数:10,970名、オンライン参加者数:14,606名)(R4:参加人数15,542名(来場者数:10,966名、オンライン参加者数:4,576名)(R5:参加人数18,650名(来場者数:13,058名、オンライン参加者数:5,592名)(R6:参加人数43,154名(来場者数:36,501名、オンライン参加者数:6,653名)指標④については、昨年の20件から2件減となり、今後も引き続き件数が増加するよう取り組んでいきたい。	基本目標を達成するために、効果があつた。	・アーティストの方より、仕事がなくアートだけで生計を立てるのが難しい、何かしらアートを軸とした仕事がないと移住しづらい、という意見も聞いている。B-biz LINKなりと連携してアーティストのマッチングや、地元アーティストを使った仕事の創生を検討していただきたい。別府在住アーティストのPRにもつながると考える。 ・重要業績評価指標について、何が悪かったのか、何を求められているのか、もう少し踏み込んだ整理が必要。その理由を一つずつ解決していけば、移住者も増えるのではないかなと思う。 ・R6年度は100周年記念事業で大幅に事業費増えているということだが、かなり金額が増えた中、このような達成度ということは、少し厳しいかなと承知している。	令和7年度以降も、情報発信拠点「TRANSIT」において、世界中の人々に文化芸術のまちとして別府市を認識させるための芸術文化情報発信事業を継続して実施する。 令和7年度は、アーティスト・クリエイターによる別府の魅力発信活動事業を実施する。
				指標②	アーティストやクリエイターの移住者数	120人	6人	40人					
				指標③	ベップ・アート・マンズの参加者数	27,265人	24,504人	5,000人					
				指標④	アーティストやクリエイターと協働して生まれた新規商品・サービス件数	- 件	18件	30件					
2	持続可能な温泉観光都市への挑戦	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	15,761,307円	指標①	宿泊客の平均宿泊数	1.09泊	1.106泊	1.14泊	基本目標を達成するために、相当程度効果があつた。	ユニバーサルツーリズム事業では、誰もが安心して訪れることができる観光地であることをPRする動画を作成し、各種SNSにて情報発信を行った。また、接遇研修やバリアフリー化の作成等を実施することで、受入体制の強化や認識の向上に繋げることができた。温泉に関する検証を深め、別府ONSENアカデミアで発表した。別府市公式観光ウェブサイトへのアクセス数もKPI値をはるかに上回るPV数が達成できた。食×観光事業では、交流を深めた事業者と生産者が互いに知り合いを紹介して新たなつながりが生まれるなど、市の仲介なしにマッチングや取引契約まで至ったことを後日知らされるような、自発的なネットワークの広がりが見られる。	基本目標を達成するために、相当程度効果があつた。	・京都ではオーバーツーリズムがかなり深刻な問題となっている。海外の方の長期滞在も一つの戦略と思うが、国内からの長期滞在客を招き入れることが非常に重要。 ・別府は移動手段が悪く、なかなか外に出ていけない。社会に出ない方が認知症になつたり体を悪くしたりというデータが上がっているのので、できるだけ外に出す手段を考えていただきたい。クルーズ船についても、移動手段が本当になく、タクシーが拾えない、という意見を聞いているので、別府のタクシーだけでなくどうにもならない時には、応援を求めるなどして、観光客の方にはできるだけ別府観光をしていただきたい。	昨年度の取組を継続しつつ、各事業の向上を目指し取り組む。また、引き続き温泉が与える好影響についての研究を深めるとともに、ウェルネスツーリズムとしてのブランディングを図る。食×観光事業では、農業者と事業者の交流については、参加者の評価が高く、市の仲介なしに自発的なマッチングが生じるようなネットワークの広がりが見られる。農業者や事業者の声を聴き、自発的なマッチングが加速するような取組を実施していきたい。
				指標②	別府・大分バリアフリーツアーセンターにおけるバリアフリーツアー相談件数	32件	124件	200件					
				指標③	別府市観光ウェブサイトアクセス数	1,058,864 PV	3,916,277 PV	1,323,580 PV					
				指標④	ウェルネスツーリズム関連旅行商品の商品化数	- 件	2件	2件					
3	持続可能な地域を目指す中規模多機能自治区形成事業	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	8,453,389円	指標①	ひとまもり・まちまもり協議会交流事業参加者数	1,700人	8,183人	933人	基本目標を達成するために、相当程度効果があつた。	[1]地域の担い手育成事業 三世代交流事業等各種交流事業を開催や先進地視察研修等により、地域の「人財」発掘及び育成に寄与することができた。 [2]ひとまもり・まちまもり事業 デジタル推進事業・防災関連事業等をはじめ、地域の食や運動等に着目したウェルネス事業等を実施し、地域課題の解決に向けて取組を実施することができた。	基本目標を達成するために、相当程度効果があつた。	・大学生など若い方に地域活動に参画してもらえよう組織づくりをもっとやるべきではないか。地域と深いつながりができないから都会に出て行ってしまふこともあるのでは。別府では昼間人口で約9000人、20歳前後の方がいる。市政の中でもっと活用すべきと思っているので、今後連携しながらぜひ協力できるところはしていきたい。 ・大学生については、学内で授業をやるよりは、街に出て何か課題を見つけて解決したいという意識を持っていると思う。大学生を活用するといったことで、何か別府らしい事業ができればと思う。 ・KPIに関し、地域の担い手の育成事業について、地域の担い手を育成している目的に対するKPIならば、例えば大学生などターゲットによって変わってくると思う。質的な部分で地域に残りたい人が動機として増えたという設定が増えれば、この目的に対するKPIとして合っているのではないかな。今のKPIの部分だけ見ると、全体的なところに絞られてしまつて本当に担い手が育成できているのか、指標としてそぐわないような気もするので、そこの検討ができたらよいのではないかな。 ・数値化で人のつながりを測るのは難しいと思うが、全国的にも自治会の加入率がかなり低いと言われており、例えば自治会の加入率をKPIに設定し、どのぐらい加わったとか、細かい内訳で20代が増えた、など設定されると、数値化しやすいのではないかな。 ・KPIについて、R5年度に、達成度がかなり高い達成度になっているが、R6年度がR5年度と同じKPIが設定されている。この事前の目標値設定のところについて、あまり高すぎるとそれは事前の設定が低いのではないかなといった指摘もされると思うので今後ぜひご検討いただきたい。	[1]地域の担い手育成事業 地域の担い手を育成するため研修会や交流会、コーディネーターの配置 [2]ひとまもり・まちまもり事業 ひとまもり・まちまもり協議会が地域課題解決のための取組を実施
				指標②	ひとまもり・まちまもり協議会交流事業実施数	10事業	35事業	6事業					
				指標③	移住に関する相談件数	254件	111件	76件					
				指標④	BEPPUサポーターズのメンバー数(増加値)	- 人	-15人	50人					
4	別府の食～給食×農業×観光～高付加価値化推進事業	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	3,837,350円	指標①	農林水産業の担い手の確保数	36人	24人	37人	基本目標を達成するために、相当程度効果があつた。	農林水産業の担い手の確保数については、目標値を下回ったものの、R5年度末時点より10人増加することができた。学校給食の児童生徒満足度については、小学生は目標達成したものの、中学生については目標値に届かなかった。観光消費額については目標を大きく上回ることができた。農林水産物の特産品化数については、R5年度より数が減ったものの、目標を上回ることができた。	基本目標を達成するために、相当程度効果があつた。	・若い人の農業に対するイメージは、あまり儲からないというイメージがある。別府産の農産物の消費額・生産額が上がったという事例があれば、儲かる別府に進化している証拠となる。そこも踏まえて強調できたら、APUはじめ大学生などにも農業という選択肢が増えてくるのではないかなと思う。 ・別府産の農産物を別府で加工してお土産にするなど、安定して商品を提供するための施策を進めていただきたい。 ・農業に触れる機会が少ないので、ボランティアを増やしていけたらよいのではないかな。大学でもボランティアの情報があり入ってこないかな、そういった情報提供の機会を増やし、もっと人手を増やしていけたら良いと思う。	さらに事業効果を出せるように、農業者や事業者の反応や評価を確認しながら継続して取り組む。また、学校給食においては、給食用食材の地産地消の推進については継続するが、仕組みの構築が進み、参加している生産者の土壌改良も進んだことから、学校給食農家謝礼金については終了する。
				指標②	学校給食児童生徒1人あたりの1日の残菜量(%)	40g/1日・人	- g/1日・人	33.5g/1日・人					
				指標②	学校給食児童生徒の満足度(小学生)	89.0%	90.0%	90.0%					
				指標②	学校給食児童生徒の満足度(中学生)	86.0%	86.7%	87.5%					
				指標③	観光消費額	86,555百万円	139,485百万円	92,325百万円					
指標④	農林水産物の特産品化数	5件	8件	7件									
5	新湯治・ウェルネスツーリズム事業～「医療・美容・健康」に特化した古く新しい観光のかたち～	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	29,882,215円	指標①	観光消費額	86,555百万円	139,485百万円	90,017百万円	基本目標を達成するために、相当程度効果があつた。	◆ウェルネスの研究・実践拠点誘致、ウェルネス交流施設の整備事業 ウェルネスの研究・実践拠点について、R6.10に設置場所を決定、発表するとともに基本計画の策定に着手し、目的達成に向けて前進することが出来た。 ◆「医療・美容・健康」プログラム事業 別府市「みんなで健活ポイント」事業によって、参加者全体の平均歩数は、全国平均値を上回り、特に女性及び65歳以上の年齢区分で有意に歩数が増加した。各種健康教室を実施することで、フレイル予防の普及啓発に努め、市民の健康増進に寄与した。産後間もない母親に対して育児不安や疲労解消のためのリゾート産後ケア事業においては、定員の2倍の応募があつた。利用者全員が満足度について、「非常によい」または「よい」と回答し、満足度が高かつた。また、市内の宿泊施設を知る機会となつた。 ◆新湯治・ウェルネス別府発信事業 20代～30代に訴え得る別府の魅力提案することが出来、また、強力なオウンドメディアを活用することで、ターゲット層に広く情報発信を行うことが出来た。	基本目標を達成するために、相当程度効果があつた。	・2019年末から比較すると、別府市のじゃらんネット掲載のルーム数は7年で130%増で5,500→7,000ルーム。全国でトップレベルの地方温泉都市になってきている。ただ、外から入ってきている旅館ホテルが多い地域になってきており、旅館組合に入ってもらっているが、オーナーがいないという状況である。別府市が発展していくことはよいことだが、この辺の部分もしっかりと連携をとってほしい。また、別府に来ているお客様も本当に市内を回避できているのかというところ、正直できてないと思う。ホテルによっては1軒で800ルームあり、全国の1つの温泉地よりもルーム数が多い。その中だけのお客様の行動が完結し、下手したら別府から次の地域へ行かれているような気もする。そういう部分も含めて、これからのツーリズム事業に取り組んでいかなければならない。	昨年度の取組を継続しつつ、各事業の向上を目指し取り組む。具体的には、研究・実践拠点を誘致するため市場調査を行い、概算事業費や事業手法等を基本計画として整理する。引き続き民間企業とのコラボレーション企画として健康データを取得・分析し、結果を見える化して健康プログラムを組成・実施する。また、健康プログラムに沿って市内全域で健康教室・体操など地域通いの場を提供する。リゾート産後ケア事業は「ウェルネス産後ケア事業」と事業名を変更し、1歳未満の子供を持つ母親を対象に助産師のサポートを得て休息時間を提供し、母親自身の心身の健康や育児、赤ちゃんの健康上の悩みの相談を受けつけ、育児不安の軽減を図る。(実施回数も令和6年度より拡充する)また、宿泊施設内に産後ケア等を実施する部屋やスペースを整備する際の補助を行い、ウェルネス産後ケア事業に参画する宿泊施設を増やすことで、観光客産婦の誘客及び受入数増につなげる。新湯治・ウェルネスのブランディング、プロモーションを引き続き実施し、全国に継続して発信することで、さらなる誘客につなげる。新湯治・ウェルネス事業と連動した市内事業者の新たな価値創造を後押しし、事業者間の競争力強化及び新湯治・ウェルネスの産業化による雇用の創出や経済活性化を図る。
				指標②	平均宿泊者数	1.09 日1人	1.106 日1人	1.11 日1人					
				指標③	観光消費額	86,555百万円	139,485百万円	92,325百万円					
				指標④	別府市観光ウェブサイトアクセス数	1,111,807 PV	3,916,277 PV	1,323,580 PV					